

## 第5回リレー式授業改善協議会 概要報告

期日：平成26年11月11日（火）

会場：大分コンパルホール

参加：立川次長、古野課長、宮崎

### 1 主催者あいさつ：後藤義務教育課長

- 第5回を数えるリレー式授業改善協議会において、大分県の目指す方向性の取組を示していく。
- 先生方の授業改善の取組により、成果が出てきている。今後さらにそれを進化させていきたい。

### 2 講演「総合的な学習の時間の構想と展開」 文部科学省初等中等教育局教科調査官 田村 学氏

#### <教師中心から学習者中心へ>

- 受身的で個別の暗記再生の学習から、探究的で協同の知識活用型の学習へ変えていかなければならない。
- 受身的で個別の学習が必要ないということではない。徐々に探究的で協同の学習へシフトチェンジしていかなければならない。急激な社会の変化がその要因である。21世紀の社会で求められる力は、汎用的能力である。

#### <探究と協同の学習へ>

- 「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の4つの探究のプロセスがあるが、丁寧にやってほしいのは、「課題の設定」と「整理・分析」である。
- 「課題の設定」で重要なのは、子どもたちの内面にある問いを顕在化することである。身に迫った、切実感のある課題を設定する。現在の状況と理想のギャップを示すことが重要である。
- 「整理・分析」で重要なのは、入力した情報をアウトプットする際のプロセスが「思考力」となる。ここを丁寧にを行うことで、考える力が付くということである。

#### <「思考力」と「思考ツール」>

- 「思考力」をブレイクダウンする。具体的な学習活動を用意する。「思考力」を「関連付けて考える」「比べて考える」などと「考える」というキーワードを細かくする必要がある。
- 思考力を養うときに、便利なものが「思考ツール」と言われるものである。思考ツールは、思考する際に用いるフレーム（枠組み）である。思考ツールは、「可視化」「操作化」ができるので、学習が活性化する。
- 思考ツールは、様々な教科において活用できる。子どもに価値に基づく選択「判断」をさせていくことができる。小・中・高で活用でき、学年が上がれば上がるほど、思考とツールがあっていく。

#### <思考ツール活用のポイント>

- 思考ツールを活用するときには、必然性、整合性、簡便性、充足性が求められる。
- 一人でやるときと、ペアでやるときと、グループでやるときは、ほぼ問題なく活性化する。しかし、クラス全体でやるときに、急にフリーズしてしまう。ここをどう解決していくか。
- グループから学級に移行するときに、思考ツールの使い方をうまく活用すれば、活性化する。特に板書によって、論点を明確化していくことで、全体の話合いが活性化する。

#### <総合的な学習の時間と学力の相関関係>

- 平成26年度の調査では、国語B問題では総合的な学習の時間を探究的に学んでいると回答した児童とそうでない児童との差は19ポイントも差が出ている。差が顕著になってきている。
- 知識を使う、知識を活用することが求められている。教科で習得した知識を、総合的な学習の時間で活用するという流れが学力を押し上げている。

#### <協同の授業へ>

- ずっと受身的に学習を続けていると、子どもたちは「次何するのか」と言い始める。正解保持者であるティーチャーの役割だけでなく、子どもたちの知をつなげていくファシリテーターの役割が多く求められている。

### 3 発表「総合的な学習の時間の授業改善」

#### (1) 九重町立淮園小学校 飯田孝子氏

- 単元を構想することから始める、使える年間指導計画を作る、思考ツールの活用の3本の柱を発表。

#### (2) 佐伯市立渡町台小学校 後藤竜太氏

- 整理・分析段階における指導法の工夫による思考力・判断力・表現力の育成に向けた学校全体としての取組を発表。

### 4 義務教育課による「総合的な学習の時間の改善」の説明・・・自校の教育課程を今一度再点検を！